

中地域自治組織 西小学校で自転車教室



西小学校体育館で4年生を対象に、中地域自治組織による自転車教室がおこなわれました。

児童は、中地域自治組織の皆さんが作った交差点の体験コースで、正しくヘルメットをかぶり自転車走行を体験。交差点での一時停止や後方左右確認、線路の横断、ブレーキのかけ方など、県警第一交通機動隊自転車対策小隊の「Voice（ビーフォース）」から正しい自転車の乗り方や交通ルールの指導を受けました。

9/25
水

子ども会 紙ひこうき大会



中央公民館集会室で、子ども会による、紙ひこうき大会が開かれました。

103組289名の参加者の中には、前回の記録を超えるように折り方を工夫している子や、子どもに負けないように飛ばすお父さんなど、それぞれ楽しく紙ひこうきを飛ばしていました。

▽未就学児の部

- 1位 長坂鳳高さん(中小口)
- 2位 山本彩生さん(下小口)
- 3位 服部 巧さん(上小口)

▽1年生・2年生の部

- 1位 柳瀬拓斗さん(下小口)
- 2位 藤田 鷹さん(さつきヶ丘)
- 3位 加藤優吾さん(中小口)

▽3年生・4年生の部

- 1位 望月利生哉さん(余野)
- 2位 小倉悠叶さん(上小口)
- 3位 西尾貴汰さん(中小口)

▽5年生・6年生の部

- 1位 宮田 環さん(竹田)
- 2位 野上瑛斗さん(さつきヶ丘)
- 3位 塚元蒼真さん(中小口)

▽中学生以上の部

- 1位 佐竹 努さん(秋田)
- 2位 望月将史さん(余野)
- 3位 佐竹琉嘉さん(秋田)

8/25
日



あなたの身のまわりの「まちの話題」をお寄せください。
 問合せ先 役場 秘書広報室 95-1616
 「まちの話題」は大口町 NPO 登録団体 ZOOM が取材・編集をおこなっています。

国民スポーツ大会 ハンドボール競技に出場



国民スポーツ大会 水泳競技で高校新記録樹立



岐阜県富田高等学校3年 小川沙耶香さん（大口中学校出身）が第78回国民スポーツ大会 SAGA 2024 ハンドボール少年女子の部に出場するため、鈴木町長へ報告に訪れました。

小川さんの大会目標は「ベスト8」。

鈴木町長は「体調管理に気を付け、大会では頑張ってきた成果と実力を発揮してください」と激励しました。

9/25
水

豊川高等学校3年 山田太陽さん（大口中学校出身）が第78回国民スポーツ大会 SAGA 2024 水泳競技 男子4×200mフリーリレーで優勝 日本高校新記録を樹立し、鈴木町長へ報告に訪れました。

5歳からウィル大口スポーツクラブの水泳教室に通い始め、小牧市のスポーツクラブで数々の記録を残してきました。将来の夢は、日本代表になってロサンゼルスオリンピックに出場したいと話しました。

9/27
金



第23回 やろ舞い大祭



全日本学生柔道体重別選手権大会に出場

大口町民会館 第一駐車場で「やろ舞い大祭」が開催され、参加チームの息の合った素晴らしい演舞で会場は大いに盛り上がりしました。

夜のフィナーレの総踊りでは、ライトアップされた舞台から観客席まで大きな踊りの輪が広がり、最後まで観客を魅了しました。

祭りのもう一つのお楽しみ「やろ舞い横丁・食お舞い横丁」に、まちづくり団体などが出展し、大勢の人で賑わいました。

9/14
土

名城大学 柔道部の永田暖さん（大口西小学校出身）が、全日本学生柔道体重別選手権大会 73kg級に出場するため、鈴木町長へ報告に訪れました。

鈴木町長も柔道経験者。「大口町にも柔道場ができました。ぜひ練習に活用していただき、子どもたちにも柔道の楽しさを教えてあげてほしい。目標のベスト8に向け頑張ってください」と激励しました。

9/10
火

第38回地区別ソフトボール大会



▲準優勝 余野



▲優勝 下小口

地区別ソフトボール大会がオーケマグラウンドにておこなわれました。この大会は、ソフトボールをとおり、市民が積極的にスポーツに親しみ、地域の融和と親睦を図るとともに健康の維持と体力の増進を図ることを目的に実施されました。

当初は9月1日(日)、8日(日)の2日間の予定でしたが、1日目の9月1日は、台風10号の影響から延期となりました。

9月8日の1日目は、市内の10地区のチームが熱戦を繰り広げました。

準決勝、決勝がおこなわれた第2日目は、朝からの降雨で開催が危ぶまれましたが、不安定な天気をもとめせず、選手の皆さんは力いっぱい練習の成果を発揮していました。

結果は次のとおり(男子の部)

優勝 下小口

準優勝 余野

第三位 外坪・河北

9/8・15
日

能登半島地震 珠洲市災害派遣報告会



令和6年元日に発生した「令和6年能登半島地震」で大きな被害を受けた珠洲市へ、災害派遣(6月1日から8月31日まで)された役場職員の櫻井真吾さん(建設課)が報告会を開き、丹羽広域事務組合、大口町社会福祉協議会、役場職員に向け、珠洲市の概要、現地の調査状況、派遣された経験をもとに職員としての心構えなどを共有しました。

櫻井さんが復旧・復興に向け従事しながら聞いた「現地職員の生の声」では、何よりも水の確保が大事ということ(一週間お風呂に入らなかった)

で頭皮が痒くなった。手が洗えないので爪が真っ黒になった。

▽非常水として役立つのは井戸。防災用など、井戸は防災に強い。

▽とにかく大変だったのがトイレ。家には住めるけど、水が止まりトイレが使えなかった。仮設トイレは便槽がすぐに一杯になるし、数が限られている。簡易トイレをたくさん備蓄しておくこと。

▽震災が冬(正月)だったので、食料の買いだめがあった。食べ物腐らなかった。雪で水分の確保ができた。

▽東日本大震災のような津波は他人事と思っていた。本震(輪島市と志賀町で震度7)前の前震(震度5)では、まだ大丈夫だという気持ちがあった。前震のときに避難すればもっと助かった人がいたはず。

被災地の1日も早い生活再建のため、行政機関をはじめ事業に関わる方々が一丸となって活動しているお話をお聞きすると、災害に備えて私たちができることは、自分の身は自分で守る「自助」、地域や身近にいる人同士が助け合う「共助」を普段から考えておくことが大切だと思いました。

10/1・11
火 金